

令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する住民説明会

- 1 日 時 令和2年9月2日(水) 19:00~20:40
- 2 場 所 下布田小学校体育館(多摩区布田23-1)
- 3 対象地域 菅1丁目、菅稲田堤2丁目、3丁目、布田周辺地域
- 4 出席者

川崎市建設緑政局長 磯田 博和

川崎市建設緑政局道路河川整備部長 福田 賢一

川崎市多摩区役所道路公園センター所長 青木 誠

川崎市建設緑政局道路河川整備部河川課長 安部 正和

川崎市多摩区役所道路公園センター整備課長 藏内 政之

川崎市多摩区役所危機管理担当課長 伊藤 公一

5 説明会議事

① 局長あいさつ

(建設緑政局長・磯田)

こんばんは。建設緑政局長の磯田でございます。

本日はお忙しいところ、この暑さの続く中、またコロナ禍のもと、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

昨年の令和元年東日本台風を受けまして、川崎市では検証委員会を設置し、今後の同様な事態が発生した場合におきましても被害の最小化ができるように検証・検討を進めてまいりまして、本年4月に結果をとりまとめたところでございます。

本来であれば、もっと早い時期に御説明に伺わなければならなかったところでございますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、様々な会議や会合などが延期や中止される中、日程を調整させていただき、ようやく本日に至りました。開催が遅れまして、大変申し訳ございませんでした。

この間、検証結果を踏まえて様々な対策を進めてまいりましたので、本日は検証結果に加えまして、対策の進捗状況についても御説明をさせていただき、皆様から御意見、御質問を受けさせていただきたいと考えております。

新型コロナウイルスにつきましては、まだまだ油断できない状況でございまして、本日の会議につきましても、人数や時間を限らせていただく中での開催となりますが、私どもといたしましては、分かりやすく丁寧な説明をさせていただくとともに、皆様からの御質問に対しても、しっかり対応させていただきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

② 資料説明

(河川課長)

建設緑政局道路河川整備部河川課長の安部でございます。これより、令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する対策などについて、御説明させていただきます。

2 ページを御覧ください。初めに、市内で取り組んでいる【1. 川崎市の治水事業の沿革】について御説明いたします。

市内を流れる一級河川は、流域の都市化に伴う雨水流出量の増大で治水安全度が低下し、早急な整備が必要になり、昭和 46 年から国、県の補助制度の適用を受け、時間雨量 50 ミリメートルの降雨に対応できる河川改修を進めております。また、総合的な治水・浸水対策として、五反田川放水路などの河川整備のほか、雨水流出抑制施設の設置指導等の取組も進めております。

次に、下の図を御覧ください。浸水被害が発生した 3 地区の河川及び施設の事業経過等をお示ししております。

【(1)河港水門】につきましては、大正時代に構築された大規模な運河計画に伴い、当時の内務省土木技師により設計され、昭和 3 年に完成したものでございます。後に、社会情勢の変化などにより、運河計画は廃止されました。現在は、船溜まりが残っており、数年前まで、砂利の陸揚げ施設として砂利運搬船が出入りしておりました。また、平成 10 年度には、かつての大運河計画の存在を物語る希少な歴史的遺産として、国の登録文化財に登録されております。

次に、【(2) 平瀬川における取組】についてでございます。従前の平瀬川は上之橋付近で東に折れ、溝口を経て多摩川に流入し、たびたび氾濫を起こしていたため、昭和 15 年から昭和 20 年にかけて県営多摩川右岸農業水利改良事業の一環として、多摩川へ全量カットするトンネルが築造されました。また、昭和 45 年度には、更なる流下能力の向上を図るため、トンネルをもう 1 つ整備しております。この様な整備により、平瀬川は時間雨量 50 ミリメートルでの河道整備が完了しているところでございます。

次に、【(3) 三沢川における取組】についてですが、河川管理者は神奈川県となっており、従前の流路は現在の旧三沢川でしたが、洪水時による浸水被害が度々発生したため、県営三沢川沿岸排水改良事業により、昭和 22 年に現在の位置に完成しております。

また、多摩ニュータウンの開発に伴い、稲城地区の排水と三沢川の流量調整機能を兼ねた分水路の整備が位置付けられ、昭和 59 年に完成しております。この様な整備を経て、神奈川県管理区間につきましては、時間雨量 50 ミリメートルでの河道整備が完了しているところでございます。

3 ページを御覧ください。

【2. 降雨水位等の基礎情報】でございます。

【(1)令和元年東日本台風の概要と多摩川流域の状況】についてでございますが、令和元年 10 月 11 日から令和元年東日本台風の接近に伴い、多摩川流域全体の広範囲に強い雨域がかかり、山梨県、東京都、神奈川県を中心に大雨となりました。図中、赤枠で記載してお

ります、多摩川流域の檜原雨量観測所、御岳雨量観測所、高尾雨量観測所、多摩雨量観測所において、観測を開始してから過去最高の雨量を観測しております。

次に、【(2)多摩川の水位状況等】についてでございます。多摩川では、田園調布（上）水位観測所と石原水位観測所において計画高水位を超過しており、グラフにお示ししているように、田園調布（上）では10月12日22時30分に既往最高の水位10.81メートルを記録しております。

次に、【(3)被害の概要】についてでございます。川崎市におきましては、令和元年東日本台風により、川崎区の港町周辺、高津区の平瀬川合流部周辺、多摩区のJR南武線三沢川橋梁周辺の3地域において浸水被害が発生いたしました。

次に、【(4)浸水地域の状況】についてでございます。被害が発生した3地域近傍における雨量観測所の最高時間雨量は、過去10年間の既往最高時間雨量を下回る雨量でした。市内の河川におきましては、高津区の平瀬橋水位観測所（平瀬川）で氾濫危険水位の超過を確認したほか、宮前区の嶋田人道橋水位観測所（平瀬川）と宮前区のあゆみ橋水位観測所（平瀬川支川）において、避難判断水位を超過しております。

次に、【(5)浸水地域の河川、水路、水門の諸元】につきましては、多摩川と三沢川、平瀬川、河港水門について記載しておりますので、後ほど御覧いただきますようお願いいたします。

4ページを御覧ください。

三沢川（JR南武線三沢川橋梁周辺）の【(1)浸水状況の検証結果】について御説明いたします。

【ア.浸水経路】につきましては、下の図にお示ししておりますとおり、「①水路からの越水」、「②管理用通路水抜き穴からの浸水」「③三沢川の亚克力板の目地からの漏水」の3つの経路を確認いたしました。この確認した浸水経路に対する対策につきましては、後ほど御説明させていただきます。

次に、【イ.高さ測量結果や水位データによる検証】についてございますが、三沢川の水位と三沢川護岸部の測量結果から、三沢川の水位が上昇していく過程で、「水路からの越水」、「管理用通路水抜き穴からの浸水」、「三沢川の亚克力板の目地からの漏水」があったと考えられます。

また、三沢川のピーク時の水位につきましては、亚克力板の高さを超えていないことから、亚克力板からの越水は発生していなかったものと考えております。この状況につきましては、上段にお示ししているグラフの22時頃の三沢川のピーク水位時に、下のグラフ「三沢川ピーク水位と三沢川護岸高さ（参考値）」を御覧いただきたいのですが、グラフの左側の三沢川水門から、右側のJR南武線までの区間において、四角表示でお示している亚克力板高と、実線でお示ししている三沢川ピーク水位により表しております。

次に、【ウ.地域ヒアリング・アンケート結果による検証】についてでございますが、浸水エリア地域の皆様に、浸水当時の状況等についてヒアリング・アンケート調査を実施させて

いただいたところ、218 件もの回答をいただきました。その結果、浸水経路につきましては、「水路からの越水」「三沢川のアクリル板の目地からの漏水」「多摩川からの逆流」との回答が多く、浸水を確認した時間帯につきましては、「20 時から 22 時」との回答が多かったところであり、「ア」でお示しした浸水経路と、「イ」の高さ測量結果や水位データによる検証と、ほぼ同じであることが確認できたものでございます。

5 ページを御覧ください。次に、【エ. 高さ測量結果や水位データによる検証】につきましては、三沢川に流入する 4 本の水路について、測量結果と水位データをまとめたものでございます。下の 4 つのグラフのうち、左上の「水路 1」、右下の「水路 4 (大丸用水)」の吐き出し口につきましては、開口している状態でございます。三沢川の水位が「水路の上部」よりも高い位置に達した際に、越水が発生したと考えられる時間帯をお示ししております。また、左下の「水路 2」、右上の「水路 3」につきましては、フラップゲートがあるものの、三沢川の水位が「吐き口の上部」よりも高い位置に達した際に、越水が起こった可能性がある時間帯をお示ししております。

この水路の浸水が起こった状況につきましては、広域な水路流域における降雨状況等や、三沢川及び多摩川の水位変動など、複数の要因が同時かつ複雑に絡んでいることから、当時の浸水状況をシミュレーション等により、精度よく再現することは非常に困難ですが、三沢川の水位が水路の高さより上昇していた事実は明らかでございますので、水路への逆流が発生していた可能性も否定できないものと考えております。

6 ページを御覧ください。

三沢川（JR 南武線三沢川橋梁周辺）で取り組む、【(2)短期・中期対策】について御説明いたします。

【ア. 水路（水門）の補修や管理等】につきましては、大丸水門の機能回復への対応については、維持管理については市が、機能回復工事については神奈川県が、それぞれ行う方向で調整し、県による水門の改修工事が令和 2 年度末までに完了する予定となることから、完了するまでの間、三沢川からの逆流防止のための仮設止水板を 7 月に、本市により配備いたしました。それに伴い、大丸用水の水が堰き止められることになるため、三沢川に排出するためのポンプ施設を 7 月に設置したところでございます。

また、その他、大丸用水を含む 4 本の水路の浚渫作業も 7 月に実施し、大丸用水の流下能力向上工事につきましても 8 月に完了したところでございます。

次に、【イ. フラップゲートの設置】につきましては、三沢川の管理用通路にあるフラップゲートが欠損した 4 箇所については、神奈川県において設置済みでございます。

また、止水機能向上のため、三沢川に流入している水路のフラップゲートのゴムパッキンの交換も、本市により実施したところでございます。

次に、【ウ. 三沢川の護岸補修】につきましては、アクリル板の目地の補修を行うこととしておりまして、応急措置につきましては既に実施済みで、引き続き、補修等の工事を令和 2 年度末までに行っていくと神奈川県から伺っております。

次に、【エ. 水位計、カメラの設置】につきましては、三沢川の大丸水門付近に、水位計や河川監視カメラが、神奈川県において設置済みでございます。

また、市管理水路の状況を把握するための水位計及びカメラについても 8 月に設置済みでございます。水位計やカメラから得られた情報を今月から一般に公開してまいります。

次に、『オ. 被害最小化の取組』につきましては、内水処理を目的とした移動式ポンプの配備や、土のうステーションを菅第 4 公園に、7 月に設置したところでございます。

7 ページを御覧ください。

三沢川（JR 南武線三沢川橋梁周辺）の【(3) 中長期対策方針】について、御説明いたします。初めに【ア. 当該地域の課題と中長期対策の考え方】につきましては、当該地域は三沢川と大丸用水、さらに三沢川と多摩川が合流しているところであることから、多摩川の水位上昇の影響を受け浸水被害が発生したと考えております。こうしたことから、中長期対策の基本的な方向性として、浸水地域の雨水処理負担を軽減させることを第一と考えているところでございます。

次に、【イ. 中長期対策の方向性】についてでございますが、当該地区の浸水被害を低減するために、稲城市と連携した調査や対策の実施方法について調整してまいります。

【(ア) 水路網調査】につきましては、当該地域に集中する雨水の流入経路を、水路網の調査をすることにより明らかにしてまいります。

次に、【(イ) 内水対策検討】につきましては、水路網調査の結果を踏まえた、水路網の見直しによる水路の流量削減や、下水道の改修と連携した雨水処理能力の向上などについて検討してまいります。

また、大丸用水排泥施設水門から多摩川の河川水が流入してくるのを防止するための改良等についても、稲城市などに要望したところでございます。

次に、資料左下の【ウ. 現在の進捗状況】でございますが、稲城市と「情報連絡会」を立上げ、大丸用水の取水口等の修繕や、川崎市域への減水を目的とした大丸用水の分水などについて協議を行っているところであり、6 月に稲城市と大丸用水土地改良区宛てに下流域への負担軽減を求める要望書を提出し、7 月に緊急時に関する連絡体制を稲城市と構築したところでございます。

8 ページ、9 ページにつきましては、ソフト対策の取組となります。この取組につきましては、後ほど、多摩区役所から御説明申し上げますので、最後のページである 10 ページを御覧ください。

【(5) 対策とスケジュール】につきましては、これまで御説明させていただきました対策について、対策時期、対策内容、対策実施者などをお示ししているものでございますので、後ほど、御覧いただければと存じます。

それでは、8 ページ、9 ページにつきまして、多摩区役所道路公園センターの藏内から御説明させていただきます。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

これまでハード対策を中心に御説明させていただきましたが、ソフト対策について御説明いたします。8 ページを御覧ください。

これからの治水対策は、ハード対策だけでは対応し難い状況の中で、ソフト対策との両輪で進めていくというのが国の方針でございます。

先に公表しました「令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する検証委員会」の報告書におきましてもソフト対策が重要視されておりまして、その短期対策方針として、河川の水位に着目したタイムライン（防災行動計画）の策定が挙げられております。こうした状況を踏まえ、8 ページ、9 ページの資料を作成させていただきました。

8 ページに示します「三沢川下流部周辺地域における避難行動のタイムライン（洪水）」ですが、避難の目安となる三沢川の水位や、住民の皆様が取るべき避難行動などを時系列に取りまとめたものでございまして、洪水時の避難の際に活用していただくことを目的に作成したものでございます。

初めに、資料の左側には、住民の皆様が避難行動を起こす目安となる三沢川の水位と、それに伴い、住民の皆様が取るべき行動、そして、指定緊急避難場所等の情報をお示ししています。

左側の中央付近の断面図ですが、三沢川と大丸用水の合流点付近に、今年の3月に神奈川県が危機管理型水位計を設置しております。危機管理型水位計とは、常時は観測せず、水位が上昇し、河川水位を注視すべき時に稼働する水位計となっております。

河川の断面図と上の表は連動しておりまして、下から上にいくにしたがい、危険度が増すつくりとなっております。

河川断面図は、堤防天端と書いてある、コンクリートの壁の一番上を0.0メートルとしていまして、護岸上部のアクリル板ではありません。三沢川の水位がマイナス4.5メートルから危機管理型水位計が観測を開始します。

断面図の上の黄色文字ですが、①の三沢川の水位がマイナス3.5メートルに到達し、気象情報等から今後も降雨が予想される場合には、避難の準備していただくタイミングとなります。避難に時間がかかる高齢者の方は、避難を開始していただくタイミングと考えております。

皆さまにおかれましては、ホームページの水位計の指標を確認していただくことをお勧めしますが、ホームページが閲覧できない方もいらっしゃるため、防災行政無線や市のパトロール車における広報も実施します。併せて、メールニュースかわさきからの発信も行い、周知に努めてまいります。

表中段の赤文字ですが、②の三沢川の水位がマイナス2.5メートルに到達し、気象情報等から今後も降雨が予想される場合には、皆様が避難していただくタイミングとなります。

この場合でも、①同様の広報を行います。住民の皆様がとるべき行動としまして、左下に示したしました、指定緊急避難場所等の安全な場所への立ち退き避難や、屋内の安全な

場所への避難を開始していただくというものです。

表の上段紫文字ですが、三沢川の水位が更に上昇し、水位がマイナス 1.5 メートルに到達し、気象情報等から今後も降雨が予想される場合には、皆様の避難が完了しているタイミングとなります。三沢川の水位がマイナス 1.5 メートルに到達する場合には、大丸用水の水が三沢川に流入しづらくなっており、大丸水門の補修が今年度中に完成するため、三沢川からの逆流を防ぐため、今年度の台風シーズンに限り、仮設止水板を大丸用水に設置します。

その場合、現地に設置した移動式ポンプ 3 台にて、大丸用水の水を三沢川に排出する作業を行います。このポンプですべてを賄いきれるわけではありませんが、短期対策として少しでも浸水被害を減らすために設置いたしました。

①の三沢川の水位がマイナス 3.5 メートルから、②の三沢川の水位がマイナス 2.5 メートルまでの間が、令和元年東日本台風においては、約 1 時間。②の三沢川の水位がマイナス 2.5 メートルから③の三沢川の水位がマイナス 1.5 メートルまでが約 1 時間かかりました。③の三沢川の水位がマイナス 1.5 メートルに達すると、浸水被害が発生する可能性が非常に高くなりますので、この水位に到達するまでには避難を完了していただきたいというものです。

具体的には、水位が③の間に避難中の住民の皆様は、確実な避難を直ちに完了し、避難行動に余裕がない場合は、屋内の安全な場所等に退避するなど、生命を守る最低限の行動を完了していただきたいと考えております。

資料の右側を御覧ください。台風や大雨に備えて、日頃からハザードマップにより災害リスクを事前に確認しておくこと、また、情報の入手先の確認方法などをお示ししています。

1 枚おめくりいただき、9 ページを御覧ください。こちらの資料は、8 ページの資料の解説となります。

初めに、【1. 三沢川下流部周辺地区の皆様への避難情報の発信】につきましては、三沢川下流部周辺地区にお住まいの皆様へ、三沢川の水位に着目した避難に関する情報発信と、それにより地域の皆様に行っていただきたい行動を記載しております。

次に、【2. 三沢川下流部周辺の水位計・カメラ】につきましては、水位計が設置されている大丸用水付近の位置や、そこでの水位情報がホームページで公開されている状況等をお示ししているものでございます。

次に、【3. 発信する情報】につきましては、①の避難準備水位や、②の避難開始水位など、避難行動に係る情報を発信する水位や、避難に係る時間、情報の入手方法並びに住民が取るべき行動などを記載しております。

なお、それぞれの行動に必要な時間につきましては、令和元年東日本台風時における三沢川の 1 時間あたりの最大水位上昇量により算出しているもので、あくまでも目安でございます。

住民の皆様には、台風の備えとして、お示したタイムラインに基づき避難行動をとれるように備えていただきたいと思っております。そして、お示した水位に応じて本市から避難に関

する情報を発信していきますので、情報を受けましたら避難行動に移していただきたいというものでございます。タイムラインを含めまして、御説明は以上でございます。

③ 質疑応答

(司会)

引き続きまして質疑応答に入ります。できるだけ多くの方に御発言いただきたいと考えておりますので、御協力をお願いいたします。

また、議事録を作成しておりますので、差し支えなければ、御発言の際にお住まいの町名とお名前を頂ければと存じます。

それでは、お一人様ずつ御発言をお願いしたいと存じますので、御質問等がある方は挙手をお願いいたします。

(質問者 1)

中長期対策方針という 7 ページのところについて伺いたいんですけども、局長さんにお答えいただきたいんですが、短期的な対策についてはよく分かったんですけども、中長期対策というところが具体的にちっともよく分からないんですが。

水路網の調査、これはもう予算が付いていると伺っているんですけども、具体的にどのように進んでいるのでしょうか。水路網の調査の進捗情報について教えてください。

それから、その後の内水対策の検討というところで、流入量の削減。具体的にどうやって削減をするつもりがあるのかとか、それから下水道の改修と連携して、というところ。そもそも、この地域には雨水を流すための下水道は一本もないはずなので、改修っていっても何を改修するのかが全く分からない。

それから、稲城市との連携というところで、この下のところで、現在の進捗状況というところで「情報連絡会」を立ち上げたとありますけれども、あと、それ以外に稲城市とどこまで具体的に要望しているのか。稲城市がどのような対策をとると聞いているのか、そのへんを伺いたいと思います。

(建設緑政局長)

ありがとうございます。日々この業務をやっている職員から説明した方が恐らく間違いないと思いますので、担当職員から答えさせますので、よろしく願いいたします。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

今の水路網調査の状況ということで、今年 4 月に補正予算を頂きまして、現在、業務委託の発注準備中でございます。大丸用水は稲城市から川崎市に向かって水路が多く広がって流れておりまして、その中の水路全部を稲城の取水口から入ってきて、昔の灌漑用水と雨水排水を行う水路というのが入り組んでいるところがございます、その全域を調べる

ということで準備しているところでございます。

内水対策検討というのは、その水路網調査の結果を踏まえて、資料に流入量の削減と書いてあるんですが、かなり水路が分岐しているところがございます、大丸用水から入って、分岐箇所がかなりあって、先に三沢川の上流に流したりとか、そういうことをして、大丸用水の水を減水させるということができないかと、そういう検討を今しているところでございます。

稲城市に関しましては、この水路網調査への協力及び、連絡体制の強化、情報連絡の場を求めることということをお願いしております、稲城市の中では、大丸用水は大丸用土地改良区が所有しているという認識でございまして、同日付けで川崎市から大丸用土地改良区宛てに排泥水門施設の開放部の閉塞と、用水側にある水門の全閉操作とあって、水門が落ちるようにしてくれということと、水路網調査に関する協力というのを要望してございます。

この排泥施設水門というのは、50センチメートルほど閉塞していない状況でございまして、修繕の方向で稲城市及び、大丸用土地改良区で動いていただいているんですが、今年の台風にはその修繕は間に合わないの、台風が予想される場合においては、事前に角落し等の工事を稲城市で施工していただいて、ここからの流入を止水していただくということになってございます。以上でございます。

(河川課長)

補足でございます。もう1つ、下水道関係の改修と雨水処理能力というお話がございました。既存の雨水の雨水管の改修等を含めた中で雨水貯留施設、雨水貯留管といたしますけれども、一時的に水を貯めるための雨水管といったものも、どこかに配備できないかというところを、内水処理の水路網調査と併せて情報を共有しながら、下水道と連携した系統ですとか、取組を考えていきたいと考えております。以上でございます。

(質問者1)

ありがとうございました。

(質問者2)

3点ほどお伺いしたいんですけど、まず、4ページ目と5ページ目の三沢川の水位と多摩川の水位の推定というところから、結局どういった理由でっていうのは完全には分からない精度ですので、まず、4ページ目の水門の全閉と水門の全開、これによって三沢川の水位が急激に16時付近で上がって、16時43分付近で多摩川の水位と同じに下がったということであれば、最初の16時付近の三沢川の氾濫、これはこの水門の全閉による流水だという可能性が高いという結論で考えていますが、よろしいでしょうか。

結局、水門が全開した後も、その水位が上昇し続けていますので、どのみち、17時以降

に三沢川の水位が上がって水が溢れ出たということが推測されますが、最初に 16 時付近の流量といたるところは、この全閉が原因だったと捉えています。

もう 1 点目が、水門の全閉・全開というところの情報がリアルタイムで住民が知ることができない情報になっていまして、もしこれが、今、全閉がされた、あるいは数時間前に全閉されるという予想が周知されていれば、こういった事態が事前に分かったのだと考えています。そのあたりについての御意見を伺いたい。

3 点目なんですけど、ポンプの設置をされたということなんですけど、取水ポンプといったところでハンディのものになると思うんですけど、実際に水が溢れ出ている道路が冠水しているような状況、この状況においてポンプを使ってどういったことができるのか。これはもう既に、例えばですけど、床上浸水とかしている状況でどんどん水が上がっている状況で、取水ポンプを使っても防ぎきれないものではないと僕は考えているんですけど、そのあたりいかがでしょうか。

(河川課長)

まず、御質問のございました 4 ページ目の 16 時 3 分から 16 時 8 分までに水門を閉鎖して、三沢川の水位が変わっているところのございます。これはまさしく水門を閉鎖して行き場のなくなった三沢川の水が、水位上昇を起こしたという事実のございます。これに伴って水路からの越水が起こったかというところにつきましては、水路より高い位置に三沢川の水が行ったという事実は、5 ページでお示ししているとおりでございますので、当然フラップゲートが付いていない水路につきましては、三沢川からの逆流があったことも否定はできないと思っております。

ただ、三沢川の水門操作は国交省で行っていますが、大きな目的としまして、多摩川からの水を三沢川に逆流させないということで三沢川水門を操作しているというところのございます。ですから、国交省もそのことをまず念頭に、逆流を感知してから水門操作をして、閉鎖をして、それが解消傾向に向かったので水門を開いていったというグラフになってございます。

あと、水門の操作によりまして、周辺の方々が情報を知り得ていなかったというところのございます。こちらにつきましては、水門操作に伴いまして、川崎市にも連絡等が来るような体制にはなっております。その際に、国から受けた情報をすぐに地元の方々に御周知できなかったところは反省すべきことでありまして、こういったところの連絡体制につきましては、国と県と市で強めていきたい、改善していきたいと思っております。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

ポンプにつきましては、今、大丸用水と三沢川の合流点のところに仮設のポンプ場として製作させていただきまして、そこが台風の時に約 1 から 1.5 メートル浸水したというこ

とで、皆様からアンケート調査を取った結果ともなっております、地上の道路と同じ高さにポンプを設置してしまいますと、水没してしまうということで、それ以上の高さにポンプ小屋を造っております。移動式のポンプを3基設置してございますが、大丸用水の水を全部吸い上げるには能力が足りませんので、短期対策として、いかに皆様の被害を少なくするのかという、減災という観点から、できることということで今回設置させていただきました。以上でございます。

(質問者2)

水門の開閉について、これは因果関係がすごく重要だと思っているんですけど、4ページ目の水位が、三沢川だけ水位が上がったタイミングと、そのピークから下がっているタイミング、これで全閉から全開までどういうふうに開いている割合が下がっていったのか。下がっていったから水位が下がった。開閉率が上がったから水位が下がったのか。それとも仰るように、徐々に水位が下がっていったので全開にしたのかっていう因果関係が非常に重要だと思っています。

2点目は、ポンプの設置されている位置ではなくて、どういうユースケースで操縦されてポンプが使われるという想定で設置されているのかっていうところです。

(河川課長)

1点目の三沢川水門の操作につきましては、先程申しましたが、多摩川から三沢川への逆流を防止するために操作ということは間違いございません。今回、逆流を感知して水門を一回全閉にしております。開く動作をしたのは、三沢川の水位が多摩川の水位よりも高い状況になりまして、水は高い方から低い方に流れますので、三沢川の水位が多摩川よりも高い状態になれば、順流といいまして、下流側に水が流れますので、それを感知しまして水門を開けて、水を三沢川から多摩川へ流しています。そういった動作で水門の閉める・開けるという操作をここでしてるところでございます。

(質問者2)

そうなりますと、全閉をした時に急激に上がってるじゃないですか。ですので、全閉をしたことによる水位の上昇っていうことは、これはやはり全閉をしたから水位が上がったと僕は見ている。

(河川課長)

おっしゃるとおり、閉めたから上がるということは当然のことだと思います。ただ、その時に、閉めたから上がるというところと、あと、多摩川の水位の状況もございまして、そこは水門管理者の国土交通省が、閉めた時の三沢川の水位と多摩川の水位の状況を見ながら、水門操作をしたと伺っております。

(質問者 2)

ということは、やはり、水門の開閉の状況というのは非常にリアルタイムで知ることが重要だと今のお話を伺って思いました。今頂いているソフト対策には開閉の情報というのは、これは国交省管轄ですので、これが含まれていないと。こういったタイミングでこれが開閉されてるかも分からない。僕、実際、この日の 22 時頃に多摩川の水門を制御されているところに何回か電話をして、今どういう状況かという問い合わせをしているんですけど、それで初めてやっとその状況が分かるといったところで、じゃあ、いつこれが開閉されるのか、今どういう状況なのかというのが非常に分からない。それによって氾濫が起きるといところの状況が分からないといところがありますので、そこを国交省の方と相談して、この情報のシステムに組み込んでほしい。省庁をまたいで対策をするということになりますので、これは非常に難しいと思うんですけど、それを検討していただきたいです。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

ポンプのお話で、三沢川の水位が上昇した場合、水門があって、その水門の補修を今、県でやっていただいているんですが、今年度いっぱいかかるということなので、今年もし三沢川の水位が上がった場合に何をするかといいますと、角落しといって、大丸用水を塞ぐ行為をいたします。これは三沢川の水が大丸用水に逆流しないように、水門を閉鎖するのと同じ状況をつくります。そうすると、大丸用水の水が三沢川には流れ込めなくなってくるので、この水を吐き出すために、ポンプを設置しているものでございます。

(質問者 2)

近隣の住民の人がどういうふうに、どこに排水口を向けて実際に使われるのか。そこは訓練等も必要だと思うんですけど、そのあたりどうお考えでしょうか。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

小屋から大丸水門のコンクリートでできているところに、パイプの半分みたいなものをわたしまして、排水口を乗せます。ポンプ 3 台の排水口を乗せて、大丸用水からポンプで吸い込んだ水を三沢川に排水するというのを、8 月 31 日にテストしているところでございます。以上でございます。

(質問者 2)

つまり、それは住民が使うものではなくて、管理事務局がやられるっていうことですね。公園にも設置されてるんですよね。公園の方もポンプですよね。第 4 公園に設置され

てるんですか。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

ポンプは川崎市が内水処理として動かすものでございまして、菅第4公園には土のうステーションを設置させていただきまして、皆様が土のうを必要な時に自由に取っていただくというものを設置させていただきました。

(質問者 2)

じゃあ、6ページの「オ」に関しては、移動式ポンプは第4公園にはなくて、あそこのフラップゲートのところ、あそこの土台の上にある1基のみということですね。4基って書いてある。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

3基を大丸用水のところに設置させていただきまして、1基は道路公園センターの事務所の資材置き場に保管してございまして、浸水が起こった場合に、そのポンプを持ち出すということで考えてございます。計4基ございます。

(質問者 2)

それは全て住民が操作するものではなくて、市が操作するものだと。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

そういうことでございます。

(質問者 2)

分かりました。

(河川課長)

何点か補足ですけど、先程の9ページのタイムラインに、国土交通省の水門操作に関連したもので、今後作り上げていただきたいという御意見につきましては、この説明会の場でタイムラインというのが、これは案としてありますけれども、初めて皆様にお渡しした資料でございます。これは、こういった水位になったらこういう情報を発信しますというところでお示ししているところなんですけど、内容につきましては、今後皆様に周知する場を設けさせていただいて、より分かりやすく、見やすく、行動しやすいようなものに作り上げていきたいと思っておりますので、頂いた御意見を参考にさせていただいて、より良いものを作ってまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(質問者 2)

水門が下りてから急激に増えてるので、水門が閉じて水位が上がってからでは行動が遅いんですよ。なので、水門が閉じる前に水門がいつ閉じるという情報があれば非常に有益なので、その点も御検討いただければと思います。

(質問者 3)

前回の台風で床上浸水、入り口が 90 センチ、門扉まで水が来た状況なんですけど、それに関係する部分でお聞きしたいのが 2 点あります。

5 ページの水路 1 なんですけど、この水路 1 の上下に写真が 2 枚あるんですけど、台風の前からちょっと不思議に思っていたのが、この下のちょうどフラップゲートなんですけど、ものすごい大きな鎖でずっと開状態になっていた。なんでこれ鎖が付いてるのかなっていうのが、確かに問い合わせをしなかったのもいけなかったかもしれませんが、結局これが原因だと思うんですけども。

当日の 16 時頃、ここの傍なんですけど、私の自宅は、この水路の手前から 4 軒目か 5 軒目のところがちょうど家を取り壊されてて、水路側のところのブロックが 2 段ほど欠落してる状態だったんですね。そこからもう既に、この水路から左 1 本家の中通路の道路がもう水がどんどん流れ込んできた、一気に。それで、我が家の傍の地域は、早めになのかどうかは分かりませんが、浸水が非常に早かった。だから、このフラップゲートの鎖がなぜ掛けられていたのか。

あともう 1 つは、今回はその改修工事でフラップゲートがちゃんと補修された。昨年と同じ台風の水位状況が起きた場合、私の地区、今回のような、水路の部分はやはり越水をして、フラップゲートが閉まっても、三沢川の水位が超水したことによって用水路の越水というものが起きて、同じ状況に、やはり床上浸水になるのか。遭遇するのかなのか。これが正直、一番直近の不安な要素です。天気予報でも、今年 9 月以降、やはり海水温が非常に高くなって、昨年度よりも強力な勢力の高い台風、また雨風も多くなるようなこともいわれていますので、この点が一番不安な要素です。

そちら様で用意された土のうち 40 袋ほど頂きました。事前に用意できる部分は対応しているんですけど、お聞きしたかった 1 点目の、なぜ鎖でフラップゲートが開けたままにされてたのか。それとあと、今回改修されたことによって、昨年と同じ状況になった時に、水位になった時に、三沢川の、どのような状況が起き得るのか。この 2 点を教えていただければと思います。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

フラップゲートが開いていた、鎖でつながれていたという状況ですが、詳細は不明ですが、地域の方からお聞きしたところ、近隣住民の方が、水が出にくいということで、鎖を

つないで開けていたという情報があります。ただ、これは定かなものではございません。三沢川は県が管理している河川で、我々はフラップゲートの管理というか、パトロール等も行っていないでした。その関係もあって、開いていたというのも我々は承知をしていなかったというところでございます。

フラップゲートが閉まっていて、去年と同じ状況になったら水路が溢れるのかということですが、フラップゲートは、ご存じのように三沢川の水位が低い時に動いて、中側からの水圧で流れる。水位がフラップゲートより高くなってしまいますと、フラップゲートは開かないという状況でございます。ですので、開かないとなると、水路から三沢川に水が流れにくくなります。ほとんど行かない可能性もありまして、その場合、水路から越水するという可能性はあります。

ただ、去年と同じ状況で逆流というのが否定できない状況にございますので、同じ状況になるのかというのは、まだ不明なところですが、水路の水も三沢川に流れ込まないというのは同じ状況でございます。また、逆流はフラップゲートが閉まっていればないというところでございます。以上でございます。

(質問者 3)

ありがとうございます。逆流がないってということなんですが、通常の大丸用水も、私も今、こちらのお話の部分は、大丸用水よりも1本内側に入っている多摩川側になるんですが、通常の水の雨水と、大丸用水は確かに多摩川からの水門を閉じるということをやられているんですが、降水量の部分で当然また溢れ得るということは、逆流が三沢川のフラップゲートよりも水位が上がった状態で逆流はなくなる。

ただし、逆に言えば、上流の方から、稲城の方からの用水路の部分はかなり限りなく長い水路を経て来るわけですから、その水量というものが皆様の方でどこまで想定されているのか、どういう状況になるのか。ここが一番、昨年と同じ状況だった場合は、やはり同じように用水路は越水して、同じ状況があり得るのかが…。逆流がないことは分かりました。ただ、逆に、台風、雨風の水量の部分でどれだけのものが想定されるのか、そこが一番不安な部分です。すみません、それをもしよろしければ教えてください。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

昨年と違うのは、昨年は大丸用水の取水口、排泥水門というところの上が開いているのと、内側のゲートが閉まらなかった。取水口は閉めたんですが、多摩川の水位が上昇したことによって排泥水門から水が入ってきました。今年の場合におきましては、今年ももう稲城市において閉めていただけということになってますので、どのくらい入ってきたかというのは分からないんですが、水が減るというのは間違いありません。なので、完全に同じ状況かというところ、そこは難しいというところでございます。

中長期対策で検討しているんですが、分水ということで大丸用水に水を集中させない取

組というのを進めておりまして、今回の台風で大丈夫かとなると、そこまですぐにできるというものではないんですが、完全な今の取水口のところのシャットアウトだけをお約束して、昨年と同じ条件にはなりづらいだろうと考えるところでございます。以上でございます。

(質問者 3)

ありがとうございました。

(質問者 4)

ポンプについて、もう 1 回いくつかお聞きしたいんですけど、9 ページの大丸用水と三沢川の水位があるんですけど、どのタイミングでポンプが起動するんですけど。それをもう一度御説明いただければと思います。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

三沢川の水位が上昇してきまして、マイナス 3.5 メートル付近で避難の準備を開始してくださいという位置になりましたら、私ども、今年水門はございませんので、仮設止水板というのを大丸用水に落とし始めます。下の②番に避難開始となっているんですが、この時に、1 枚 30 センチくらいの止水板を 7 枚落としていくことになりますので、その流れを見ながら止水板を落としていきまして、完全に③の状態になった場合に、三沢川の水が大丸用水に逆流しないように、止水板で水門と同じような形で止水しまして、そこで、タイミング的には真ん中くらいまで、②の段階くらいまで止水板を入れた段階で大丸用水の水位が若干上がってきますので、そこでポンプが稼働し始めると考えるところでございます。以上でございます。

(質問者 4)

ありがとうございます。三沢川と多摩川の間三沢川水門、国がかんでいる水門があると思うんですが、こちらにはポンプがあるんですけど。先程の質問でよく分からなかったんですけど、水門に多摩川に排水するようなポンプがあるのでしょうか。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

国交省が管理しています三沢川水門にはポンプはございません。昨年の台風の時もそうなんですが、三沢川水門を閉めるとなると国交省にポンプ車を要請して、三沢川から多摩川に排水するというのをやらせていただきました。今回もそういう事態に陥った場合に、ポンプ車の要請をさせていただきます。以上でございます。

(質問者 4)

分かりました。あと4ページなんですけれども、【イ.高さ測量結果や水位データによる検証】というところで、図面というかチャートのようなものがあります。パラペット高（三沢川）というので黄色い位置にあるものなんですけど、大丸用水の位置ってというのがアクリル板がないので、三沢川の水位を見ていると、三沢川から大丸用水の辺りから水が入ってきたという感じなんですか。

あと、できればアクリル板、大丸用水の辺りにもアクリル板は必要なんじゃないかと思ってるんですが、そのへんはどうお考えなんですか。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

三沢川を管理しているのが神奈川県でございまして、アクリル板は多摩川のハイウォーターレベルを想定して設置したと伺っております。河川に勾配があるものですから、水門の手前くらいでアクリル板を切ってるのは、多摩川の水位を見越してアクリル板を付けてないということ伺っております。

当日の現地の状況ですが、大丸用水の合流点では三沢川の水が大丸用水側というか内陸側、民地側に流れ込んでなかったという証言がございまして、水位的にはアクリル板を越えてないということで、ここから下流部におきましても、三沢川は越水してなかったということ想定しているところでございます。以上でございます。

(質問者4)

わかりました、ありがとうございます。以上です。

(質問者5)

まず1つ、4ページに三沢川護岸から越水が発生していなかったと考えられる、という検証結果があります。あと、まちづくり委員会とか傍聴させていただいたんですけれども、その時に多摩川の既往最高水位が今回の浸水の大きな原因の一つであると仰ってたんですけれども、川崎市が検証するのは多摩川のことでも三沢川のことでもなくて、実際、川崎市の責任は大丸用水だと思うんですね。多摩川は国ですし、三沢川は県の管理なので、川崎市が検証すべきは大丸用水のことだったと思うんです。今回、私は大丸用水の未管理・未整備がこの浸水の原因だったと思うんですけれども、市の方はそれについてはどのようにお考えですか。

(河川課長)

川崎市が管理してますのは確かに多摩川でもなくて、三沢川でもなくて、水路になります。これは大丸用水だけではなくて、図面に載せています4本の水路を川崎市が管理しております。

検証作業の中で行ったのは、皆様からお声を頂いている、どうして水路からの越水した

のかとか、浸水被害が起こったのかというところの原因究明を、既往最高水位を記録した多摩川からの影響、それに伴う三沢川水門の操作、三沢川の水位の上昇ということで、単発的に水路だけということでは、なかなか原因と対策というところに行き着きませんか、そういった複合的な要素を含めて検証したというところですので、川崎市が水路だけということではなくて、多摩川上流で降った大雨を記録した、多摩川流域で三沢川だけでなく浸水被害が起こっていますので、そういったところも含めて検証したということでございます。

(質問者 5)

大丸用水の未管理・未整備というところは認められますか。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

大丸用水水門が昭和 40 年代に河川整備に併せて県が整備しまして、その管理者が不明な状態が続いてたということは事実であります。以上でございます。

(質問者 5)

ということは、認められるということでしょうか。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

大丸用水が未完ということですか。

(質問者 5)

未管理ですよ。水門の台帳もなければ水門の操作ができなかったということは、やっぱり未管理だと思うんですけど、そこは認めていただけますか。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

水門の管理者が不明な状態ということがあって、管理実態がないことは、川崎市が管理していたわけでもなくて、県が管理していたわけでもなくということで、管理者が不明な状態が続いていたというのは事実でございます。

(質問者 5)

すごい分かりづらい説明というか、はっきりしないんですね、何かね。納得いかないんですけど、いいです。

もう 1 つ、あと何点かあるんですけど、先程水路網図は 4 月に予算が付いて準備中だったことをおっしゃってましたけど、いつになったらきちんと契約がされて、きちんと調査していただけるのか、はっきり、そこは局長に伺いたいです。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

発注準備しているのは多摩区道路公園センターでございまして、はっきりというのは、今月中と言いたいところなんです、10月に入ってしまうかもしれないんですが、契約をしてしっかり調査をしてまいります。

(質問者 5)

去年の10月の水害で、もう今9月に入って、予算が春についたのに、いまだに水路網図を作ってもらえないっていうのは本当に不満でなりません。そこは本当に一刻も早く水路網図をしっかりと作っていただかないと、本当に次こうやって大雨が降った時に不安で不安で仕方がありません。なので、是非そこは局長にはっきりと回答していただきたいです。

(建設緑政局長)

おっしゃっていただいたことは本当にそうございまして、既に稲城市とは年明けくらいから、現場を一緒に歩いたり、お互いに図面を持ち寄ったり、そういう作業は進めてはおります。ただ、御指摘のとおり、頂いた予算をまだ契約できていないことは事実ですが、その間、その契約がされてないからといって全く何もやってないわけではございませんので、できることから少しずつでも進めておりますので、そこは御理解いただきたいと思うのと、これから急げる範囲で急いで進めてまいりたいと考えておりますので、できれば御理解いただきたいと思っております。

(質問者 5)

私、稲城市から水路網図も頂いて持っているんですけど、稲城市はきちんともう既にしっかりした水路網図があるんですよ。ないのは川崎市なのに、なぜ、水路網図を作るのに稲城市と一緒に協議するのか。川崎市がやればいいことだと思うので、本当に一刻も早く水路網図の作成をお願いしたいと思います。

それと、ごめんなさい、もう1つポンプ場なんですけど、水門を閉めるっていうことは必ずポンプが必要だと思うので、ポンプに関しては移動式ポンプでなくて、大丸用水のところにもしっかり常設のポンプ場をつくっていただきたいですし、あと、三沢川から多摩川へのところも、閉めるのであれば必ず常設のポンプ場が必要だと思うので。京浜河川事務所に伺った時に川崎市から要望は出ていませんと。ポンプ場を造るという要望はもらっていませんと聞いたので、是非、県でも国でも、要望を出すところにはしっかり、川崎市が住民を守るためにポンプ場の要請をしっかりとしてほしいです。

稲城市に要望してるっていうふうにおっしゃってますけど、要望してるだけでは本当にいつまでもずっと、もうずっと要望してます、要請してます、検討中です、協議中ですし

か聞こえてこないのです、しっかりと本当に、次にはしっかりと、こういうところまで今きていますということを住民にお知らせしていただきたいと思います。よろしく願います。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

稲城市に関しましては、情報連絡の場を設けるとか、連絡体制の強化というのは、既に終わっております。こちらから水門を閉めてくださいという状況になった場合に連絡すれば、水門を閉めていただけるような連絡体制をつくっております。あと、先程も申したとおり、今年、排泥施設水門の全閉ができていない状況なんです。稲城市の工事によりまして、角落しで完全に止水するという協議もいたしております。なので、我々も何もしていないわけではありませぬので、そこは御理解いただきたいです。

あと、常設ポンプというお話なんです。水路網調査をやって、先に分水で減水っていうような浸水対策も検討しております。最終的に大丸用水にどのくらいの水量が来るのかというところで、最終のポンプの容量等が決まっておりますので、常設のポンプというのでも検討の1つになると思います。以上でございます。

(河川課長)

補足します。三沢川水門の閉鎖に伴って、国に、我々は排水機場といっていますけど、排水機場の要望は来てないというところですが、確かに要望はしてません。最初にここでやろうとしてるのは、大丸用水を含めた水路からここに集まる水をどれだけ工夫をして下げることができるのかということをやろうとしています。そういった過程の中で、どうしてもというところが出てきますので、そうした場合は水門操作に伴って、ポンプ車の派遣ではなくて排水機場とか、そういったやり方も検討していかなければいけない思っております。

ただ、実際水門を閉鎖した時に、排水機場といわれる大きな施設を設けようとするすと、相当大きな用地が必要になります。そうしますと、当然、皆様の生活しているところに建設するようになりますので、それは簡単にできるようなものではございませんので、そういったところも含めて、今後中長期の方向で検討していかなければいけないところだと思っております。

(質問者 5)

用地については近隣に稲田取水場の跡地とかあると思いますし、色々場所的には近隣にあると思うので、是非お願いしたいと思っております。

あと、ポンプ車を手配するって仰ってましたけど、実際去年の時にはもう 16 時とかに浸水が始まっていたのに、ポンプ車の手配が 18 時 20 何分とかで、実際ポンプが来たのは、もう夜中 10 時 30 分とかに開始されたようですので、閉める段階ですぐにポンプ車の

手配をお願いしたいと思います。

あと、今回の対策によってどのくらいの水の量が減ると、今の段階でどの位の量が減るっていうふうに。例えば、前回の半分になるとか、量的にどのくらい差があるという対策になっているのかを教えてください。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

先程申しました排泥水門からどれだけ入ったというのが、多摩川の水位では分かりませんので、どれだけ差があるとは言えないんですが、大丸用水の取水口は全閉にするというのは今後の対策でございます。

それと、今後の分水等によって当地区の大丸用水への水の集中というのを防ぐということを検討してまいります。ただ、今の段階で、どれだけというのはまだお示しできない状況でございます。申し訳ございません。

(質問者 5)

取水口は去年も全部閉まってましたって仰ってたと思うんですね。開いてたのは排泥のところであって、そこから入ってきたって話で、取水口は閉まっていたと思うんですけど、今のお話だと。とにかく、今後もう二度とこういう床上浸水になるようなことがないように、もう次に来たら私は本当に生活が成り立たないですし、なんで市民が数百万円もの改修費を払わなきゃいけなかったのか。やっぱり市がもっときちんと対策をしてもらいたいと思います。もう二度とこういうことがないように、しっかりと対策をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(司会)

大変申し訳ございません。お時間が迫ってまいりましたので、本日の質疑はここまでとさせていただきますと思います。また、先程申し上げましたとおり、今回は説明会の時間を限らせていただいておりますので、お手元に「御質問・御意見記入用紙」をお配りさせていただいております。まだ御質問等ございます方は、お帰りの際に入り口付近の回収箱を御利用いただければと思います。

また、記入用紙の下の方に記載がございますメールやファクスからも御質問いただけます。申し訳ございません、お時間が来ておりますので、申し訳ないですけれども。

(質問者 6)

今、すごい大雨で、今これで終わりますといっても帰りようがないので、少しゆったりと時間を延ばした方がいいんじゃないかと思います。

1つは、6 ページのフラップゲートの設置。これ、私の理解の仕方が違うのかもしれませんが、間違えてるかもしれませんが、そしたらごめんなさい。対策内容として、①フラッ

プゲートを4箇所設置した。②止水機能向上のため、フラップゲートのゴムパッキンを交換した。これは別物ですか、①と②。これがまず1つです。4箇所設置したというのはまた別につくったのか、そのへんがこの文章ではちょっと分かりません。

それから下水道なんですが、雨水貯水施設下水道、浸水被害軽減ということで、前、国が主導して動いたものですが、これは今、稲田堤3丁目は対象に入っているのかどうか、これを教えてください。

それから水路網なんですが、これは私もとても気にしてまして、多分、企業に委託するんでしょうかね、業者にね。そのへんも、進めます、進めてます、でなくて、きちんと時期を決めて逆計算で動けるようにしていただかないと、不安でしょうがないですね。

それから排泥口の問題ですね、稲城の。これは今年の春、国交省から、これは駄目ですよと。こんな状態では駄目じゃないでしょうかという意見書を出してるそうですね。国交省までもそういうことを言ってるんですから、早く稲城市と進めて解決していただきたいと思います。

何といっても多摩川の掘削ですね。多摩川をこんな浅い状態にしておいてはよくない。やっぱり多摩川がしっかりしていれば、水害も対策を立てやすいということが考えられますね。そこの堰から上流の方はシラサギの足が見えるくらい浅くなっちゃってますから、やっぱり本気になって国交省に、多摩川を掘削してほしいということを強く、こちらから声を大にしてやっていかなきゃ駄目ですね。

それで、まちづくり委員会では国交省はもうやったと、多摩川の浚渫は。とんでもないですね。私は京浜河川事務所へ行って聞きました。そういうことだったんですけれども、あれは水の通り道をつくったにすぎませんよと国交省が言ってます。こんな状態であるんですから、まちづくり委員会で多摩川の掘削は終わったと議会で言ってますよね。しかし、国交省に行ったら、あれは道筋をつくっただけですよと。この矛盾は何でしょうか。やっぱりもう少し多摩川を真剣に考えていかないと、大きな被害を起こすと。

それから神奈川県ですね。三沢川の草木や浚渫、底がたまっちゃってますから。本当にもっとひどいのは、ここはましな方だってことを言ってるんですよ。だからやらないということ言ってるんですね。これはちょっととんでもない発言だなというふうに思います。

それから避難場所なんですが、避難場所がさっき表にありましたけども、今コロナがこれだけ大問題になってますので、避難場所がこれで追い付くのかどうかって、ちょっと近隣は心配してます。前回19号台風で避難場所を、あちこち閉まってるところを開けてほしいという交渉があちこちから、あちこちで声を大きくして、強くして、やっと開いたというところが何箇所かありますね。開けて避難する人はいないと思うんですね。そんなおかしなことも一部あったようですが、それはちょっと私には分かりませんが、開けて避難する人はいないと思いますね。

それからポンプの設置、常設置場ですね。移動でなくて、やっぱりきちんと大丸用水

のところを計画化しないと。ポンプの上は完全に強風で吹っ飛ばすような屋根ですので、あんな状態ではとてもじゃないけど持たない、はっきり言いまして。だんだんだんだん強い台風が、今、10号ですか、少しまた右側に来ましたね。だんだんだんだん私どもに近づいてくるようになってきました。大きい台風ですね、今年は。1つ1つが。本気になって今年はこの被害がないように、とにかく1つ1つ、つぶすようにして解決して欲しいです。協議してますという言葉はやめましょうよ。具体的に計画を立ててください。心配ではないです。以上です。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

フラップゲートを4箇所設置したというのは、道路の水抜き穴がございまして、道路から円い水抜き穴が下に向いていると思うんですが、板のようなものですね、これがないところが4箇所ございまして、そこから、三沢川の水位が上昇した時に道路の方へ水が入ってきたという証言がございまして、その4箇所を塞いだものでございまして。ゴムパッキンの交換というのは右側の大きい、水路に付いてるフラップゲートの内側のゴムが劣化していたので、これを取り替えたものでございまして。

(下水道管路課長)

菅稲田堤3丁目地区について、区域に入っているのかということでございますけども、三沢川の地区につきましては、平成28年度に川崎市の中でもいくつか浸水対策をしっかりとやっていく重点化地区に指定してございまして、具体的には、平成30年度から府中街道の南側の地区ですね、菅北浦1丁目、2丁目地内について、ボックスカルバートの敷設をしているという状況でございます。

菅稲田堤3丁目の地区についても対策の区域のエリアに入っておりますので、今後検討を進めて、工事着手できるようにしっかりと対応してまいりたいと考えております。現状ではそういう状況でございます。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

水路網の調査につきましては、水路網図というのは川崎市にもございまして。昭和の時代に作ったものがございまして、開発されたり畑が住居になったりとか、そういうもので変更になった部分がございます。そういうところの詳細を水路網調査で行うものでございまして。

目的といたしましては、灌漑用水として流れている部分と雨水排水、普段はカラカラで、若干貯留にも使えるのではないかとというようなところも調査しまして、分水と併せてそういう使えるような水路がないかと、調査して内水対策の検討をしていきたいと考えているものでございまして。以上です。

排泥施設水門につきましては、国から、堤防の関係で位置の変更を求められていると稲

城市から聞いてございます。将来的には変更する予定でいるということは伺っておりますが、具体的な予定は聞いておりませんし、現在の取水口は前回も閉まってました。ただ、排泥施設の水門の上が開いていて中の水門が開いていて、そこから大量の水が入ってきたと想定しておりますので、そこを完全に閉めるように考えております。以上でございます。

(河川課長)

続きまして、多摩川の掘削でございます。確かに三沢川の合流点と、あと、これは下流の平瀬川で中州にあたる部分を国交省が浚渫しております。実は、これで終わっているわけではなくて、国の「多摩川緊急治水対策プロジェクト」で、多摩川の土砂掘削を 198 万立米やっていくという計画がございます。これにつきましては、今後 5 年間、令和 6 年度までにやっていくというところで、三沢川の下流部も該当してるエリアですから、まだ国から詳しくどういったスケジュールでどこをやってくかというところは示されておませんが、川崎市からも多摩川の沿川自治体と一緒に、国に早期にやっていただけるように働き掛けはしてまいりたいと考えております。

(質問者 6)

多摩川の掘削については国からも聞いてます。国交省からも。ただし、ここはもうこんな状態で、19 号台風でこんな状態ですので、やはり優先して急いでやってもらわなきゃ困るので、そこを強く押してもらえないでしょうか。

(河川課長)

承知いたしました。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

三沢川の浚渫に関しましては、県から、発注済みの水門の工事と併せて行くと伺っております。時期的には、9 月くらいから入るということで伺っております。以上でございます。

(危機管理担当課長)

前回の台風の際には避難所の数が確かに少なく、皆様に御心配、御迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。

今後、このような多摩川の洪水警報が出た場合につきましては、多摩区内 21 箇所の学校がございますが、全てを緊急避難所として開設する予定でございます。

また、体育館を当初使う予定でございましたが、教育委員会と学校の施設管理者であります校長先生と現在協議をしているところでございまして、子どもたちが普段授業をして

おります教室の開放につきましても御検討いただいて、開けていただけることになっております。ただし、その時の災害の状況に応じて教室を開けてまいりますので、今現在、全ての教室を御提供することは、まだ回答は頂いていない状況ですけれども、避難場所の確保については、前回以上の広さが取れると考えております。

また、コロナの関係もございます。現在皆様がお座りになっている状況は、まさに避難所に皆様が集まっている状況に似ているところがございます。このようにソーシャルディスタンス、距離を取った形ですと、今までよりも確かに少ない数の方しか収容できない可能性がございますので、こちらのタイムラインのところに説明が入っておりますけれども、ご友人やご親戚の所への分散避難とか、家の中での垂直避難とか、高い建物にお住まいの方については避難所に向かわず、ご自宅にいていただくというような啓発をしております。『備える。川崎』というタブロイド紙を9月にポスティングをさせていただいたところがございます。また、ホームページにも載っておりますのでマイタイムライン、ご自分の避難行動につきまして、いま一度、ご家族でお話し合いをしていただければと考えております。私からは以上でございます。

(多摩区役所 DKC 整備課長)

常設ポンプにつきまして、これから行う水路網調査等、あと、分水・減水の結果を踏まえまして、必要な対策ということで、常設ポンプも検討の1つということで先程も答えたとおりなんですが、大丸用水にまず水を集中させないという取組の中で、ポンプが必要かどうかというのを検討してまいります。以上でございます。

(司会)

大変申し訳ございません。お時間を少々超過しておりますので、質疑応答はここまでとさせていただきます。と思います。

先程申し上げましたとおり、お手元に「御質問・御意見用紙」がございますので、御質問等ある方はこちらを御活用いただければと思います。

また、用紙の下の方にメールやファクス番号等を記載してございますので、そちらからも御質問等頂ければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは最後に、現場責任者でございます多摩区役所道路公園センター所長の青木から閉会のごあいさつをさせていただきたいと思っております。

④ 閉会のあいさつ

(多摩区役所道路公園センター所長)

多摩区役所道路公園センター所長の青木でございます。

本日は、説明会に御参加いただきまして、誠にありがとうございました。

冒頭にもお話しさせていただきましたが、令和元年東日本台風の際の浸水被害について、本市といたしましては、大変重く受け止め、被害の最小化に向け検証を行ってまいりました。そして、現在、検証結果を踏まえた対策を進めているところでございます。住民の皆様安心していただけるよう、一日も早い完了を目指して、いただいた御意見を踏まえながら、しっかりと取り組んでいかなければならないと考えております。

今後も、引き続き、対策を着実に実施していくとともに、中長期対策についても、県や稲城市などと連携して検討を進めていきたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。